

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

年 頭 挨 拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会 長 神 山 清 志



新年あけましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

旧年中は会務運営に多大なるご支援、ご指導、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) による新型肺炎 (COVID-19) の蔓延に伴い、埼玉県においても緊急事態宣言が何度も発令され、多くの我慢を強いられた年となったのではないのでしょうか。8月には1日の新規感染者が連日2万5千人を超える日が続き、会員各位におかれましては検体採取、PCR検査、抗原検査など新型コロナウイルスに追われる日々が続いたことと察します。当初、欧米諸国に比べて出遅れ感があったワクチン接種も医療従事者を皮切りに高齢者から若者へと接種が拡大され77%を超えました。ワクチン効果・その他の要因により感染者数は劇的に減少し落ち着きを取り戻しつつありますが、新たな変異株の出現など、まだまだ予断を許さない状況であります。

会務においては各種研修会がオンデマンドでの開催となり、第49回埼玉県医学検査学会は埼臨技初となる現地開催とオンデマンドのハイブリッド開催となりました。新たな学会のあり方の一つを提供できたのではないかと思います。今年は第50回の節目の学会となります。記念式典も開催する予定です。諸先輩方から脈々と受け継がれてきた埼臨技学会の歴史の重みを感じつつ更に充実した学会となる試金石となるような学会にしたいと考えています。

第204回通常国会において、「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律 (令和3年法律第49号)」が成立され、令和3年10月1日から施行されました。タスク・シフト/シェアとして追加された業務を行う場合は、厚生労働大臣が指定する研修を受けなければなりません。コロナ禍であることから講習会の基礎講義については日臨技のホームページからWeb (オンデマンド) で受講を行い、実技講習については各都道府県技師会が担当し行うことになりました。埼玉県でも昨年11月より実技講習を開始いたしましたが、実技講習は60人/回しか受講することができず会員の皆さま方におかれましては申し込みがしづらい状況が起こりうるかもしれません。全会員ひいては全臨床検査技師の受講を希望します。

昨年は東日本大震災から10年、熊本地震から5年という月日が経ちました。まだ多くの傷跡が残っており復興道半ばです。また静岡県熱海市で発生した土石流では多くの方が犠牲となりました。昨年は埼玉県において大きな災害は起こりませんでしたが、いづどこでも起こりうる災害を支援するために、臨床検査技師向け災害に関連した研修会を検討していく所存です。

昨年の7月から9月には、オリンピック・パラリンピックが東京を中心に開催され、画面越しにアスリートの躍動に多くの勇気と元気と感動をもらいました。2022年は寅年で壬寅 (みずのえとら)

実行委員会の初期の立ち上げからカウントすると、約20か月にわたる活動期間が経過しました。新型コロナウイルスが感染拡大する中での学会準備にて、本当に現地開催が実現するのか不安な気持ちを常に抱えながら、3回顔を合わせた以降はすべてWeb上でのコミュニケーションに切り替えることとなりました。12月時点で合計2,000通を超えるメールのやりとりを経て、実行委員はPC画面を通じてお互いの立ち位置を理解し、それぞれの歯車をかみ合わせてまいりました。

至らない部分も多々あったかと思いますが、感染者が発生することなく無事にここまで来れたこと、学会の運営や開催にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日：令和4年12月4日(日)

会 場：大宮ソニックシティ

テ　マ： 伝統と革新

サブテーマ：～ 知・技・験の伝承 ～ 50回だよ！ 全員集合～

第50回 埼玉県医学検査学会
学会長 神山 清志



明けましておめでとうございます。第50回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただきます、浦和医師会メディカルセンターの神山清志と申します。本学会は50回目という大きな節目を迎えます。会員・賛助会員の皆様におかれましては日頃より埼臨技の諸活動に対しご支援、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年10月に第1回実行委員会が「50回だヨ！全員集合～」を合言葉に開催されました。実行委員は山口純也実行委員長をはじめ理事、理事施設と研究班員から選抜させていただきました。新型コロナウイルス感染症の第5波が収束したばかりでしたが、開催形式（今回は現地開催）と学会カラー（ピンク色：サーモン）はその日に決定しました。

今学会のメインテーマは「伝統と革新 ～知・技・験の伝承～」としました。私たちが行う業務や組織活動は、今までのこと（伝統）を知り踏襲したうえで、常に新しい取り組みを行う必要があります。そして、臨床検査技師としての知識・技術に完成はありません。50回の節目にあたり、伝統を守りながら革新していこう！そのためには私たちが培い得た知識・技術・経験を次世代に継承していこう!!といった思いが込められています。

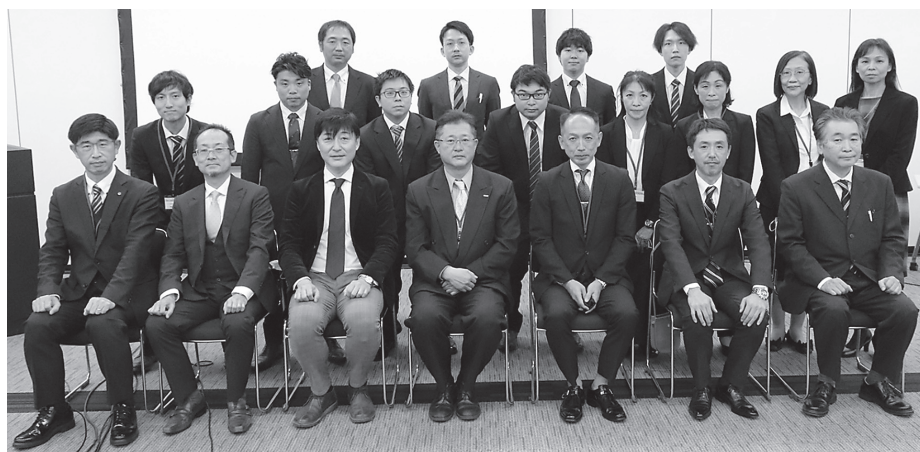
今後、学会の開催形式や企画、また50回ですので記念式典の開催も検討しております。新型コロナウイルス感染症の動向が気になるところですが、現地開催を目指し、この節目の学会で会員・賛助会員が一堂に会せる（全員集合できる）ことを目標にしております。詳細が決まりましたら、「埼臨技だより」やホームページなどでご報告させていただきます。

皆さま、よろしくお願い申し上げます。



第50回 埼玉県医学検査学会実行委員

役 職	氏 名	勤 務 先
学会長	神山 清志	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
実行委員長	山口 純也	埼玉県済生会川口総合病院
事務局長	長澤 英一郎	さいたま市立病院
事務局	山下 康衣	埼玉県臨床検査技師会 事務所
渉外部長	長谷川 隆	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
渉外	鈴木 由美子	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
会計部長	神戸 考裕	関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所
会計	加藤 鉄平	埼玉県済生会栗橋病院
学術部長	阿部 健一郎	深谷赤十字病院
学術	廣瀬 良磨	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
学術	伊波 嵩之	さいたま赤十字病院
学術 (HP担当)	南雲 涼太	埼玉県済生会川口総合病院
学術	岸 健太	医療法人社団武蔵野会TMGあさか医療センター
運営部長	小原 明	埼玉県済生会川口総合病院
運営 (HP担当)	野本 伊織	埼玉県済生会川口総合病院
運営	岡村 卓哉	獨協医科大学埼玉医療センター病理診断科
運営	渡邊 裕樹	埼玉医科大学総合医療センター中央検査部
運営	末次 遼太	自治医科大学附属さいたま医療センター
学会担当理事	神嶋 敏子	埼玉県立小児医療センター
学会担当理事	飯野 望	埼玉医科大学保健医療学部



タスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会 (埼玉001)に参加して

去る2021年11月23日(火)東武医学技術専門学校で開催された「タスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会(埼玉001)」に参加された会員の方の感想を紹介します。

深谷赤十字病院
倉股 春希



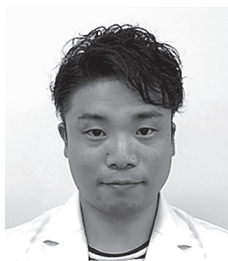
この度「タスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会」に参加し、今後臨床検査技師に必要とされる知識と技能を学ぶことができました。

静脈路確保と造影剤注射の実習は、模擬の腕を装着し2人1組で行いました。私は今年度入職した新人であり、普段の採血もまだ必死になって行っているため、採血よりも手順の複雑な静脈路確保はとても難しかったです。しかし、実習中は講師の先生とペアの受講生にたくさんサポートしていただき、必要な手技をしっかりと身につけることができましたと思います。

造影剤の注入では、三方活栓の操作や血管にエアーを入れないようにする操作を行ったことがなく、座学でもイメージが掴めなかったのが、実際に練習できて良い経験になりました。

1日を通して実技講習をする時間が豊富で、なにより講師の先生方が親身になって指導してくださり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。病院の業務の中で、この度取得した技能を実践する機会ができれば、ぜひ積極的に挑戦したいです。

埼玉県済生会川口総合病院
野本 伊織



11月23日に開催された「タスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会」に参加いたしました。今後、指定講習会に参加される方も多いかと思しますので簡単な内容と感想を紹介したいと思います。

実技講習は3部構成で、『静脈路確保・造影剤注入等・成分採血等』『持続皮下グルコース検査・吸引痰』『肛門機能・内視鏡検体採取・誘発電位等』となっています。

その中の実技2で行われた持続皮下グルコース検査・吸引痰についてお話しさせていただきます。

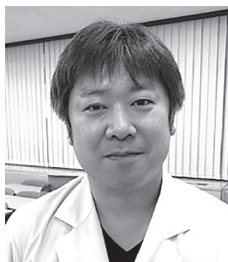
持続皮下グルコース検査は、血糖値を持続して測ることにより、血糖コントロール指標の代表であるHbA1cでは把握できない血糖の急激な上昇・低下を観察できるようにしたもので、近年注目を集めています。

今回、この持続皮下グルコース検査機器の1つである“アボット社 Freestyle リブレ”を実際に準備し被検者に装着するという実習を行いました。私自身が被検者代表となり患者さんの気持ちを体験しましたが、率直な意見として針を刺された感覚はなく、非常に簡易的な検査だと感じました。スマートフォンのアプリケーション対応もしており、今どきの検査だと感じるとともに、2週間、自身の血糖コントロールを観察して食生活を改めようと覚悟しました。

検査のための経口、経鼻、気管カニューレからの喀痰吸引採取実習では、吸引シュミュレータQちゃんを相手に実技講習を行いました。まずは口腔、鼻腔、気管カニューレの構造や解剖学を学び、カテーテルの長さや吸引のコツを実際に体験し手先の感覚として知ることができました。吸引が禁忌となることは原則的にありませんが、カテーテル挿入での出血等の予期せぬ事故やリスクがあることを忘れてはなりません。

実技講習すべてが对患者さんであり、危険も隣り合わせ、上手いいかないことが多々あると思いますが、とにかく患者さんへの説明やコミュニケーションが非常に大切だと感じました。タスク・シフト/シェアにより日頃実施していなかった他部署の業務を経験することにより、個々の部署の大変さ、悩みを共有することができ、チーム医療としての輪がより広がることを期待します。

獨協医大埼玉医療センター
渡邊 一儀



11月23日、東武医学技術専門学校にて開催された「タスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会」に参加しました。この講習会を履修することで、10項目の業務を臨床検査技師の職域に加えることが可能となります。実技講習会は3つのセッションに分かれていて、それらを1日かけて順に実習をしていきます。私からはそのうちの1セッション（内視鏡生検・肛門内圧検査・運動誘発電位）に関して、感想を述べさせていただきます。



消化器内視鏡における生検については、人体模型（模擬経管ルート）を使用して口腔から消化管へ仮想内視鏡を挿入し、生検鉗子にて擬似組織を採取しました。医師との連携が必要な業務ですが、適切な病理検体を提出する過程でもあるため、技師がそこに関与できることは付加価値が高いと感じました。肛門内圧検査については、模擬肛門を使用して模擬カテーテルを挿入しました。挿入深度等の技術面だけでなく、心理面への配慮が重要な行為であるため、患者とのコミュニケーションが重要と感じました。内視鏡生検と肛門内圧検査は、これまでに触れたことのない分野でしたが、臨床検査技師が臨床の場で協働が出来る業務としても、意義が高いようです。運動誘発電位・体性感覚誘発電位に係る電極（針電極含む）の装着および脱着については、動画にて電極装着部位やその手技を確認しました。私は手術室で術中神経モニタリングを主業務としており、針電極の装着が出来るようになることは、限定されたスタッフで運営する手術室としても、とても大きなことです。当院の同業務を担当している全員が、近いうちに本研修を履修できるように準備をしています。そののち医師等々と相談をしながら、タスク・シフト/シェアを進めたいと考えています。

実技講習はWeb（オンデマンド）による座学を先に履修することが必要となります。現時点では、この9項目の業務に携わる可能性が低いと考えている方もいらっしゃるかもしれませんが、これに限らず今後、臨床検査技師としての働き方自体が変わってくる可能性があると思われます。まだWeb講習を終えていない方がいらっしゃれば、まずは積極的に進めたうえで、可能性への準備をすることをお勧めします。



令和3年度 第2回 検査室管理運営研修会開催のお知らせ

タスク・シフト/シェア関連研修会

～ 活躍の場は検査室だけじゃない！ まだまだできる業務拡大 ～



今回の検査室管理運営研修会は2部構成で行います。講演1の講演では、肝炎医療コーディネーターとして、臨床検査技師の立場からどのように関わっているのかを戸田中央総合病院の塚原晃氏に、また講演2では、新型コロナワクチン集団接種会場での打ち手として、全国に先駆けいち早く手を上げ対応された、群馬県臨床検査技師会の井田伸一会長をお招きして、その取り組みについてご講演いただきます。埼玉県では、打ち手の確保は十分とのことで、私達の出番はありませんでした。貴重な体験談が聞けると思いますので、皆さん是非ご視聴下さい。

日 時：2022年2月17日(木) 19時～ Web開催

講演1：「肝炎医療コーディネーターとしてのタスクシフティングを考えよう」

医療法人社団東光会 戸田中央総合病院 塚原 晃 氏

講演 2 : 「全国初の臨床検査技師によるワクチン接種」

群馬県臨床検査技師会 会長 井田 伸一 氏

参加費：無料

尚、本研修会が生涯教育研修プログラムに記載されていないこととお詫びいたします。

研究班研修会報告

テーマ 埼玉でもあります!! 当院の寄生虫症例報告会

主催 一般検査研究班

実施日時：令和3年11月9日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：星 このみ（埼玉県済生会川口総合病院）

小関 紀之（獨協医科大学埼玉医療センター）

渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員79名

出席した研究班班員：藤村和夫 小関紀之 室谷明子 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邊裕樹
小針奈穂美 中川禎己

研修内容・感想など

今回の研修会では、「埼玉でもあります!! 当院の寄生虫症例報告会」をテーマに、寄生虫に関連する3症例の講演があった。

1 症例目は、星氏よりマラリア原虫の検出事例についての講演であった。繰り返す発熱を主訴に、肝胆道系酵素やCRPの上昇、ヘモグロビン濃度の低下、身体所見では黄疸および肝脾腫を認めた患者において、末梢血塗抹標本からマラリア原虫の虫体（1つの赤血球に複数の輪状体）が検出され、熱帯熱マラリアと診断された症例であった。末梢血塗抹標本でマラリア原虫を検索する上で重要なことは、原虫と類似して観察されるごみや血小板に注意することであり、ギムザ染色ではごみは青色に染まり、一方で原虫は紫色に染まることが肝要とのことであった。また、マラリアは早期治療が必要な疾患であるため、患者情報を収集のもと、熱帯熱マラリアの鑑別ないし除外が重要とのことであった。

2 症例目は、小関氏より回虫の検出事例についての講演であった。当症例では、海外渡航の頻度が高い患者から直接検出された（3つの口唇が著明である）虫体が回虫と判定された事例であり、虫体鑑別以外の検査は実施されなかったものの、虫体の特徴や患者背景から確信的なものであった。また、選択する検査方法や幼虫寄生の有無によって検出率が左右されることや、他種も含めた虫卵の形態的鑑別の重要性について解説があった。各寄生虫の虫卵および虫体の形態的特徴は認定一般検査技師試験においても頻出の分野であり、大変参考になる内容であった。

3 症例目は、渡邊氏より生体肝移植後の免疫抑制療法により糞線虫感染症を発症した事例についての講演であった。生体肝移植を実施した患者において免疫抑制が行われた際、血液培養、胆汁、腹水培養で細菌が検出されたと同時に好酸球数が増加し、患者の出生地からも寄生虫感染が疑われ、精査した結果、糞線虫に感染していることが判明した例であった。糞線虫の鑑別は遺伝子解析によって行われたが、ヒツジ寒天培地においてスウォーミングするはずのない細菌が遊走しているかのように認められたのは、コロニーの周囲を糞線虫が這ったためであることが示唆された。結果的に、当症例は糞線虫症に起因して細菌培養が陽性となったことが示唆され、免疫抑制状態における寄生虫感染症のリスクについて考えることができた。

公衆衛生の改善が顕著となってきた今日、本邦における寄生虫感染症例は減少傾向にあるが、世界的視野で見ると寄生虫感染症はまだまだ残存している側面が垣間見える。寄生虫感染が疑われる事例においては、臨床側との情報共有を確実に行之、適切な検査法の選択とともに検査者の十分な知識を合わせることで、より確実な診断に寄与できると考えられた機会であった。

（文責：柿沼智史）



なお、今後詳細が確定次第、随時日臨技ホームページ上で変更状況のお知らせを配信するそうなので、定期的なチェックも合わせてお願い致します。



会費の内訳については下記のとおりとなります。

会費内訳			
一般社団法人	日本臨床衛生検査技師会	会 費	10,000円
		入会金	2,000円
公益社団法人	埼玉県臨床検査技師会	会 費	5,000円
		入会金	1,000円
継 続 会 員 合 計			15,000円
新 入 会 員 合 計			18,000円

**令和3年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第9回 理事会議事録**

日 時：令和3年12月9日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所
さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ．行動報告 Ⅱ．報告事項
 Ⅲ．承認事項 Ⅳ．議題

出 席：現地にて出席
(理事) 神山 矢作 松岡 猪浦 濱本
 長澤 山口 神嶋 菊池 松尾
 伊藤 笹野 塚原 松寄 石井
 神戸 阿部 長岡 久保田
 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 飯野

(監事) 細谷

欠 席：(理事) 小山

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ．行動報告 (令和3年11月14日～令和3年12月8日)

11月11日(木) 令和3年度第8回理事会：

神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、
長澤、山口、神嶋、菊池、松尾、
伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、
神戸、阿部、長岡、久保田、長谷
川、遠藤、細谷

11月16日(火) 青年部委員会会議：

神嶋、濱本、神戸

11月17日(水) 第50回埼玉県医学検査学会

第2回実行委員会：神嶋、飯野

11月19日(金) 第49回埼玉県医学検査学会

第14回実行委員会：神嶋、飯野

11月20日(土) 第49回埼玉県医学検査学会抄録審
査取りまとめ：久保田

11月22日(月) タスクシフト実技研修会前日準備：

神山、猪浦、濱本、長岡、阿部、
伊藤、松寄

11月23日(火) タスクシフト実技研修会：

神山、矢作、松岡、猪浦、小山、
濱本、長澤、長岡、阿部、伊藤、
笹野、松寄

11月25日(木) 公益法人立ち入り検査：

神山、長澤、石井

11月25日(木) 日臨技 災害対策支援規程説明会：
矢作、神戸

12月1日(水) 日臨技関甲信支部合同Zoom会議：
神山、松岡、小山、濱本、長澤、

山口、神嶋、菊池、伊藤、笹野、
塚原、松寄、石井、神戸、阿部、
長岡、久保田、長谷川、飯野

12月4日(土) 日臨技各認定試験会場設営：神山

12月5日(日) 日臨技各認定試験監督：神山

12月5日(日) 第49回埼玉県医学検査学会：

神山、矢作、松岡、猪浦、小山、
長澤、山口、神嶋、菊池、伊藤、
笹野、塚原、松寄、石井、神戸、
阿部、長岡、久保田、長谷川、飯
野、遠藤

Ⅱ．報告事項

1 事務局

1) 11月22日(月) タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(埼玉県001) 前日準備を行った。(別紙資料1)

2) 11月23日(火) タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(埼玉県001) 開催した。(別紙資料2)

3) 11月25日(木) 日臨技 災害対策支援規程説明会に2名の理事が出席した。埼玉県版の災害支援規程案を矢作強志副会長、神戸考裕理事が作成することとなった。(別紙資料3)

4) 11月25日(木) 埼玉県医療整備課による公益法人立ち入り検査が実施された。法人の運営について問題となる指摘事項はなく、終了した。

5) 12月12日(日) タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(埼玉県003) を東武医学技術専門学校にて開催予定

6) 令和4・5年度日臨技会長候補者として現日臨技会長の宮島喜文氏を推薦することとした。

7) 黒住医学研究振興財団より第57回「小島三郎記念技術賞」と第41回「福見秀雄賞」の推薦依頼が届いた。

2 総務部

1) 12月15日(木) 埼臨技だより第511号発行予定

2) 11月16日(火) 青年部委員会会議を開催した。(別紙資料4)

3) 第2回女性技師企画研修委員会(メール会議)を開催した。(別紙資料5)

4) 第3回女性技師企画研修委員会(メール会議)を開催した。(別紙資料6)

3 事業部 特になし

4 学術部

1) 12月15日(水) 埼臨技会誌Vol.68 No.2 2021 発行予定

2) 生涯教育研修プログラム2・3月分を埼臨技だより12月号に同封予定

3) 第2回編集委員会(メール会議)を開催した。(別紙資料7)

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 令和3年度正会員費10名50,000円、入会金

- 7名7,000円、再入会金3名3,000円、合計60,000円の入金があった。
- 2) 石井印刷に埼臨技だより第510号 印刷代119,009円を支払った。
- 3) 弔事献花代29,700円を支払った。
- 7 精度管理委員会 特になし
- 8 一都八県会長会議
- 1) 令和4・5年度日臨技会長候補者として、宮島喜文氏を一都八県で推薦した。
- 9 日臨技関甲信支部
- 1) 令和4・5年度日臨技会長候補者として、宮島喜文氏を首都圏支部とともに推薦した。
- 2) 12月1日(水)日臨技会長候補者選挙に関する関甲信・首都圏合同Zoom会議が開催され、宮島喜文候補者、神山関甲信支部長、中山首都圏支部長、都県会長より各立場からの挨拶があった。
- 10 日臨技 特になし
- 11 第49回埼玉県医学検査学会
- 1) 11月19日(金)第49回学会実行委員会を開催した。(別紙資料8)
- 12 第50回埼玉県医学検査学会
- 1) 11月17日(水)第50回学会実行委員会を開催した。(別紙資料9)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和3年度分)
- 令和3年12月1日現在
- 会員数 3,359名[令和2年度会員数3,214名]
(新入会員 272名)
賛助会員 76社[令和2年度 78社]
承認された。
- 2) 令和4年度定時会員総会の日程について
令和4年6月9日(木)に大宮ソニックで
開催としたい。

左記の件について、濱本隆明事務局次長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 事務員の冬季賞与について

上記の件について、濱本隆明事務局次長より発言ののち、石井直美会計部長より賞与額の提案があり、審議の結果、承認された。

- 2 総務部 特になし
- 3 事業部 特になし
- 4 学術部 特になし
- 5 精度保証部 特になし
- 6 会計部 特になし
- 7 精度管理委員会 特になし
- 8 第49回埼玉県医学検査学会

1) 学会PR動画について

第49回学会はオンデマンドで2022/1/10まで配信されるため、参加申し込みが12/31まで可能である。現地開催が終了後もPR動画を流すことについて承認していただきたい。

上記の件について、神嶋敏子学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

- 9 第50回埼玉県医学検査学会 特になし

Ⅳ. 議題

- 1 事務局 特になし
- 2 総務部 特になし
- 3 事業部 特になし
- 4 学術部 特になし
- 5 精度保証部 特になし
- 6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

危機の中で人は成長し、危機の中で人は本物になる(坂村真民)

「念ずれば花ひらく」で知られる坂村真民の言葉です。一遍上人の生き方に共感したという坂村は、一遍上人の生まれ故郷である愛媛県に移り住み、「たんぽぽ堂」と称する家で詩作に励んでいました。毎朝1時に起床し、近くの川で祈りを捧げるのが日課だったといいます。

新型コロナウイルス感染症の大流行という危機の中で、仕事内容が変わったり、増えたりした会員の皆様も多いと思います。新型コロナの流行がなければ、検体採取やPCRをこれほど多くの臨床検査技師が携わることがなかったのではないかと思います。新型コロナは私たちにより成長のきっかけを与えてくれたのではないのでしょうか。必要に迫られ急いで始めた業務かもしれませんが、回数を重ね多くの患者や検体と向き合うことで技術レベルも上がり本物となったのでしょうか。新型コロナも捉え方を変えてみると違った視点となり大きく意味合いが変わるものですね。

(松岡 記)

